

# 伝統の美と機能を現代に活かす

## 和泉多摩川教会完成見学会

伝統を継ぎ、健康を守り、自然を守り、人をつなぐ、

人と環境に負荷のかからない廃棄処分まで責任のある河合工務店の家創り

今日の住まいは沢山の化学建材が使用され、部屋には断熱材やサッシ等を使用することにより気密性が向上し、化学建材等から発生する汚染された部屋の空気は外に出にくくアレルギー、シックハウスの原因にもなっています。

食べ物や工務店は選ぶ事が出来ますが部屋の空気は選択出来ません。私達は何よりも部屋の空気を大切にしたい家づくりを提案し実践しています。国産材にこだわり自然素材をいんだんに使用した家をご覧ください。

新築、リフォーム等ございましたらお気軽にご相談下さい。

### 和泉多摩川教会を設計して

教会建築も元々は、住まいから発展していったもので、レオナルド・ダヴィンチの「最後の晩餐」を見れば解るように、キリストを信仰する者が、キリストを中心に食卓(祭壇)を囲む空間であれば、教会と云うことができるようです。

ですから、日本で建つ教会はヨーロッパとは違った素材工法で建てられて然るべきです。この和泉多摩川教会は、間取りを工夫することで、空調機器、ソーラー発電に頼らなくてもよくできています。まさに伝統的環境建築と云うことができます。素材は国産の木材(10種類程使用)で、機械に頼らず大工の墨付、刻み、金物にも頼らずに建てられています。

日本は国土の70%が森林という、先進国ではフィンランドに次ぐ森林国です。この教会もコンクリートや鉄ではなく、法隆寺などの仏教寺院が木材で建立されているように、伝統的木造軸組み工法で建築され、風土になじむたまたまいとなっております。

今回この計画で2階を礼拝堂にしたのは、小屋組そのままを表したかったからです。

神と人々(50人+α)との交わりの場を、木材という素材で豊かに実現できたでしょうか。

工事契約する1ヶ月前から礼拝堂の空間を決定づける8mスパンの赤松の丸太、なめらかなむくりがついたもの5本を探すため、福島県の協和木材に河合工務店社長、酒井棟梁、材木屋さん、それに私共設計者側2人が訪れました。丸太の元口は、直径50cmはあるという大物です。幸いにも、大量の赤松材の中から意中の丸太を選別することができました。

礼拝堂のある2階には納骨室が附属し、巾1.5mの階段と、エレベーターが2階へ人々をいざないます。1階は小集会室と厨房が、一体となっており、牧師室、身障者用のトイレが設けられています。

床の段差は全くなく、外からスロープで導入されます。一階も光と風向きを考慮し、自然の恵みを充分享受できるように検討されています。

全てが自然素材であり、外材や合板も一切使われておりません。

カーテンではなく障子を多用し断熱性能を高め、漆喰と和紙、杉板の壁、床は栗材・松材、小屋裏には杉が張られており、天井は杉板全ての素材で湿度調整が行われています。

無垢の木を多用することで、高温多湿の日本固有の風土に対処することができます。

礼拝堂の大空間は、日本でなければできない木の香漂うものとなりました。

梁材は曲ったものは曲ったなりに使われ、市民にも愛され、狛江市の街並の景色の一つとなることを願っております。

辻垣建築設計事務所 辻垣正彦



地松の選定



作業場での松梁加工



(株)河合工務店 河合 孝  
〒1664-0001 中野区中野1-41-20  
TEL03-3362-6492 / FAX03-3363-3704  
<http://www.kawaikoumuten.jp>

辻垣建築設計事務所 辻垣 正彦  
〒141-0031 品川区西五反田8-10-14  
1F-7206  
TEL03-3492-4245 / FAX03-3493-6417

日時・4月23日(土)・24日(日)

午前10:00~午後4:00

場所・狛江市東和泉4-8-7

小田急線和泉多摩川駅北口徒歩5分

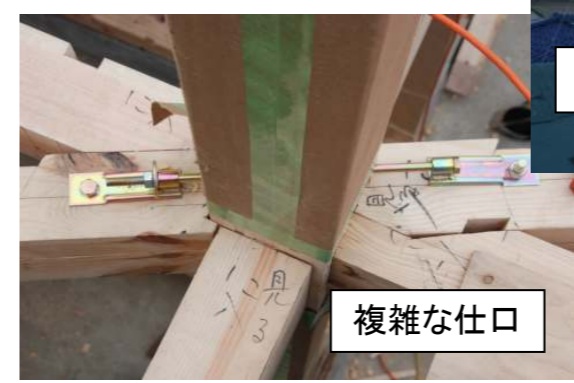
※見学をご希望の方は事前にお申込み下さい。



大スパン(8m)の松梁



祈りを込めて十字架の取付



複雑な仕口



### その特徴

- ・すべてが国産材と手刻みの加工
  - ・化学建材、合板、農薬等使用していません
  - ・重量感のある大きな梁と温もりのある癒しと祈りの空間
  - ・伝統工芸士による江戸切子が入った障子
  - ・礼拝堂入口手引きには七宝焼が
  - ・エレベーター床にはムクノ山桜フローリングが
  - ・電磁波対策ですべてにアースを接地
  - ・その他天然のシボリ丸太使用等 見どころ一杯の建物です。
- 是非御覧下さい。